

人も地球も健康に

Yakult

株式会社ヤクルト本社

第65期 中間期 **株主通信**

平成28年4月1日 ~ 平成28年9月30日

掲載内容

- 01 株主の皆さまへ／連結業績ハイライト
- 03 セグメント別業績概況
- 07 第2四半期連結財務諸表等
- 09 特集 新ヤクルト中央研究所がついに完成！
- 11 会社情報
- 13 コラム ヤクルト中央研究所
「オープニングカンファレンス」を開催！



To Our Shareholders / Highlights of Consolidated

ごあいさつ



代表取締役会長CEO

堀 澄也



代表取締役社長COO

根岸 考成

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

ここに、平成28年4月1日から平成28年9月30日までの経営成績につきまして、連結の業績を中心にご報告申し上げます。

平成28年12月



私たちは、生命科学の追究を基盤として、
世界の人々の健康で楽しい
生活づくりに貢献します。

当第2四半期について

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、雇用情勢および所得環境の改善により、緩やかな回復基調が続いています。しかしながら、アジア新興国等の景気下振れや英国のEU離脱問題により、海外経済の不確実性が高まり、先行きの不透明な状況にあります。

このような状況の中で、当社グループは、事業の根幹であるプロバイオティクスの啓発・普及活動を展開し、商品の優位性を訴求してきました。また、販売組織の拡充、新商品の研究開発や生産設備の更新に加え、国際事業や医薬品事業にも積極的に取り組み、業績の向上に努めました。

一方で、国際事業においては、円高による為替換算

連結業績 ハイライト

● 売上高

(億円)



の影響を受けています。

これらの結果、当第2四半期連結累計期間の連結売上高は1,889億円(前年同期比2.8%減)となりました。利益面においては、営業利益は、187億円(前年

同期比16.4%減)、経常利益は237億円(前年同期比16.0%減)、親会社株主に帰属する四半期純利益は149億円(前年同期比11.9%減)となりました。

	当第2四半期連結累計期間	通期の見通し
売上高	1,889 億円 (前年同期比 2.8% 減)	3,790 億円 (前期比 2.9% 減)
営業利益	187 億円 (前年同期比 16.4% 減)	340 億円 (前期比 15.1% 減)
経常利益	237 億円 (前年同期比 16.0% 減)	430 億円 (前期比 15.1% 減)
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益	149 億円 (前年同期比 11.9% 減)	260 億円 (前期比 9.9% 減)

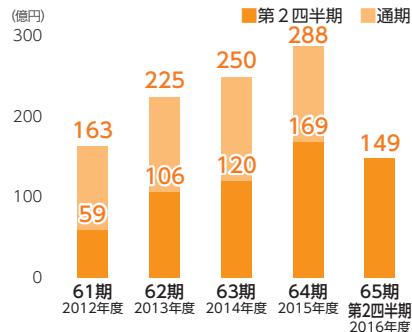
● 営業利益



● 経常利益



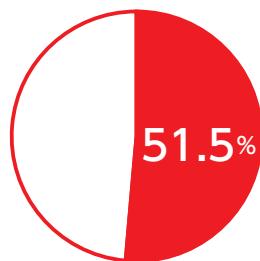
● 親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益



Financial Result by Segments

※セグメント別の売上高構成比は、セグメント間売上高の消去前金額に対する構成比です。

飲料および食品製造販売事業部門(日本)



売上高構成比

当第2四半期連結累計期間

売上高

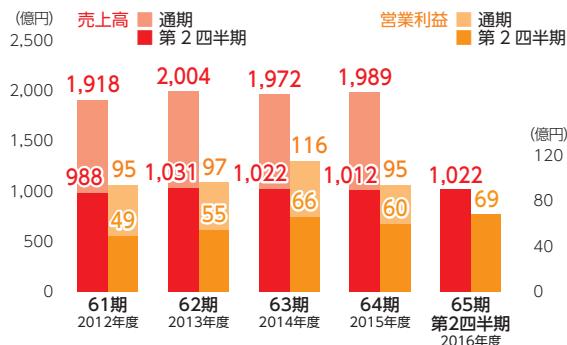
1,022 億円

(前年同期比： 1.0% ▲)

営業利益

69 億円

(前年同期比： 14.5% ▲)



日本国内における乳製品については、当社独自の「乳酸菌 シロタ株」などの科学性を広く訴求するため、エビデンスを活用した「価値普及」活動を積極的に展開しました。

宅配チャンネルにおいては、5月末に価格改定およびデザインリニューアルを実施した乳製品乳酸菌飲料「ヤクルト400」および「ヤクルト400LT」について、引き続き、既存のお客さまへの継続飲用促進および新規のお客さまづくりに努めました。また、宅配組織の強化を図るため、ヤクルトレディの働く環境の整備をすすめるとともに、採用活動を継続して展開しました。

店頭チャンネルにおいては、乳製品乳酸菌飲料「Newヤクルト」および「Newヤクルトカロリーーフ」を中心に「乳酸菌 シロタ株」の「価値普及」活動を展開し、ブランドの価値向上を図りました。また、7月から9月まで「世界のヤクルトフェア」を実施することで、日本を含め世界33の国

と地域で展開しているヤクルトブランドを訴求するとともに、新規のお客さまづくりおよび既存のお客さまへの継続飲用促進を図りました。

商品別では、のむヨーグルト「ジョア」について、9月までの期間限定アイテム「ジョア ピーチ」を導入しました。さらに、ウォルト・ディズニー・ジャパン株式会社とのライセンス契約に基づき、5月から7月まで映画「アリス・イン・ワンダーランド～時間の旅～」とタイアップした「ふしぎの国のアリス」デザインパッケージを、7月から8月までディズニーサマーデザイン「アリエル」パッケージをそれぞれ展開し、ブランドの活性化と売り上げの増大を図りました。

一方、ジュース・清涼飲料については、6月から栄養ドリンク「タフマン」および「タフマンV」の東京ヤクルトスワローズデザインを展開しました。さらに、7月にはテレビCMを中心とした広告施策を実施し、ブランドの活性化を図りました。

NEWS & TOPICS
2016年

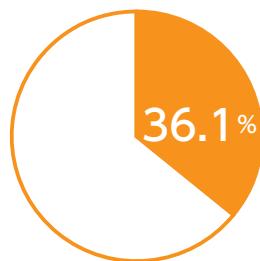
> 映画『ドクター・ストレンジ』の劇中に「Yakult」のロゴが登場！

ウォルト・ディズニー・カンパニー傘下のマーベル・エンタテインメントが製作し、全世界で公開される映画『ドクター・ストレンジ』（日本公開は2017年1月27日）において「Yakult」のロゴが映画内で露出されるプロダクト・プレイスメントを実施します。映画のクライマックスシーンで「Yakult」のロゴを登場させることで、「Yakult」の「グローバルブランド」としての存在感を広く世界中のお客さまにお伝えします。



© 2016 MARVEL

飲料および食品製造販売事業部門(海外)



売上高構成比

当第2四半期連結累計期間

売上高

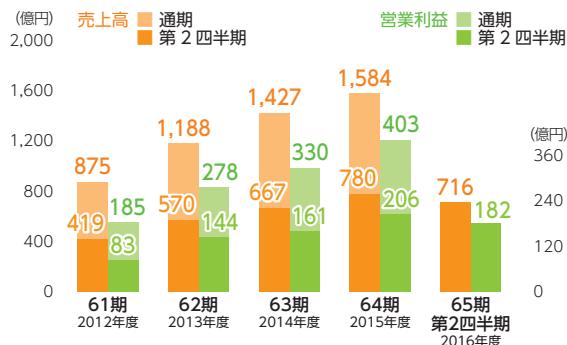
716 億円

(前年同期比: 8.2% ↓)

営業利益

182 億円

(前年同期比: 11.5% ↓)



米州地域

売上高 234億円 (前年同期比: 15.4% ↓)

米州地域においては、ブラジル、メキシコおよび米国で乳製品乳酸菌飲料「ヤクルト」などを製造、販売しています。

ブラジルにおいては、消費者の健康意識向上による低カロリー製品ニーズの高まりに応えるため、7月から乳製品乳酸菌飲料「ヤクルト40ライト」の販売を開始しました。

米国においては、7月から米国中西部を中心に大手流通チェーンで「ヤクルト」の販売を順次開始しています。

アジア・オセアニア地域

売上高 440億円 (前年同期比: 4.3% ↓)

アジア・オセアニア地域においては、香港、シンガポール、インドネシア、オーストラリア、マレーシア、ベトナム、インドおよび中国などで乳製品乳酸菌飲料「ヤクルト」などを製造、販売しています。

中国においては、6月から雲南省昆明市および広西チワン族自治区南寧市での販売を開始しています。

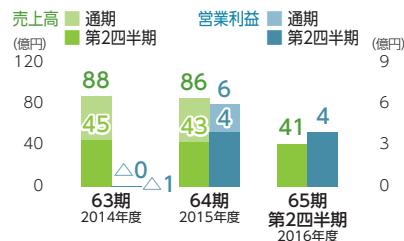
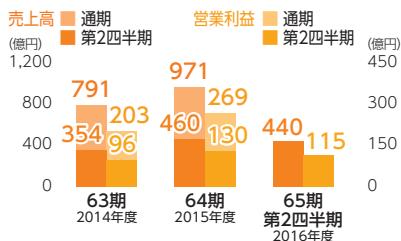
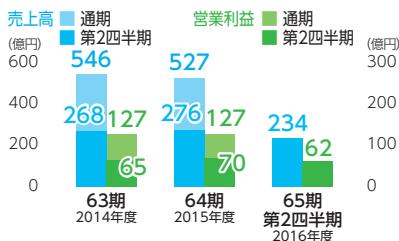
ミャンマー連邦共和国においては、平成30年の「ヤクルト」の製造、販売開始に向けて準備を進めています。

ヨーロッパ地域

売上高 41億円 (前年同期比: 3.4% ↓)

ヨーロッパ地域においては、乳製品乳酸菌飲料「ヤクルト」などをオランダで製造し、同国を含め、ベルギー、イギリス、ドイツ、オーストリアおよびイタリアなどで販売しています。

ヨーロッパのプロバイオティクス市場は依然として厳しい現地経済の影響を受けており、また競合他社との競争が続いています。



医薬品製造販売事業部門



売上高構成比

当第2四半期連結累計期間

売上高

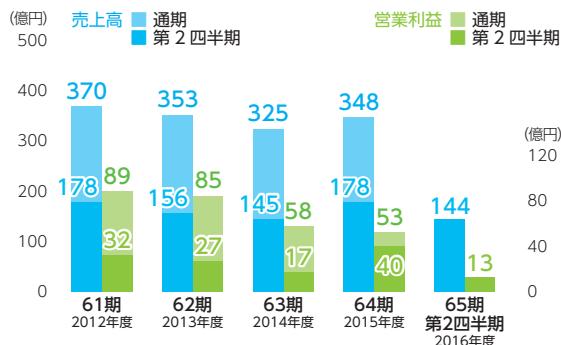
144 億円

(前年同期比：19.2% ↓)

営業利益

13 億円

(前年同期比：67.9% ↓)



医薬品については、がんおよびその周辺領域に特化した当社製品の啓発活動や適正使用を推奨する活動を推進しました。

当社の主力製品である抗悪性腫瘍剤「エルプラット」は、昨年、効能・効果に「胃がん」が加わったことから、既存の効能・効果に加え胃がん領域での浸透を図るため、医療関係者を対象に講演会などを積極的に開催し、シェアの拡大に努めました。「エルプラット」の後発医薬品が上市されて以降、後発医薬品への切り替えが進んでいるものの、先発医薬品を開発した当社の強みである情報提供力により、引き続き「エルプラット」を選択してもらおう活動を展開しました。そのほか、代謝拮抗性抗悪性腫瘍剤「ゲムシタビンヤクルト」、骨吸収抑制

剤「ゾレドロン酸ヤクルト」およびタキソイド系抗悪性腫瘍剤「ドセタキセルヤクルト」などの販路拡大に努め、売り上げの増大を図りました。

しかしながら4月の薬価改定により、当社製品の薬価が大きく引き下げられており、苦戦を強いられています。

一方、研究開発においては、4SC AG社から導入しているHDAC阻害剤「レスミノスタット」、エテルナゼンタリス社から導入しているPI3K/Akt阻害剤「ペリフォシム」および日産化学工業株式会社と共同開発を進めている血小板増加薬「YHI-1501」などの開発パイプラインの開発を推進しました。これらにより、今後、がんおよびその周辺領域において、さらなる強固な地位の確立を目指します。

NEWS & TOPICS
2016年

> ディズニーデザイン「ツムツム」パッケージの「ジョア」が期間限定で登場

ディズニーデザイン「ツムツム」パッケージの「ジョア」を2016年11月上旬より期間限定で発売しています。また、12月上旬から下旬まで、ディズニークリスマスデザイン「ツムツム」パッケージを発売します。いずれもジョアの「プレーン」「ストロベリー」「ブルーベリー」「マスカット」と期間限定アイテム「贅沢オレンジ」の計5品に、全30種類(1品種6種類)のデザインを展開します。



© Disney

その他事業部門



売上高構成比

当第2四半期連結累計期間

売上高

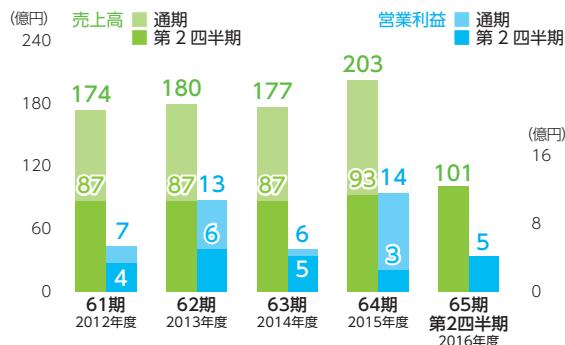
101 億円

(前年同期比：8.1% ↑)

営業利益

5 億円

(前年同期比：46.5% ↑)



その他事業部門には、化粧品の製造販売およびプロ野球興行などがあります。

化粧品については、当社が創業以来培ってきた乳酸菌研究から生まれたオリジナル保湿成分「S.E.(シロタエッセンス)」の「価値普及」に重点をおき、基礎化粧品の主力ブランドである「パラビオ」「リベシ」および「リベシホワイト」を中心としたカウンセリング型訪問販売活動を継続して展開しました。

具体的には、「リベシホワイト」および「ラクトデュウS.E.ローション」を第2四半期の重点商品と位置づけ、「美白」および「保湿」をテーマとした活動を行うことで、新規のお客さまづくりと既存のお客さまの継続愛用を促進し、売り上げの増大に努めました。

一方、プロ野球興行については、神宮球場において各種イベントを通じたファンサービスやさまざまな情報発信を行い、入場者数の増大と売上増加に努めました。

> 高機能化粧品「パラビオ」シリーズから「パラビオACクリーム サイ」を発売

「パラビオ」シリーズは1995年の発売以来、高級基礎化粧品としてご好評を得ています。2016年11月1日、「パラビオ」シリーズ最高峰のクリームである「パラビオ ACクリーム サイ」(医薬部外品)をリニューアル発売しました。「ラメラ粒子エクストラ」(保湿成分)の改良に加え、お肌にハリ・弾力を与える「ビフィズス菌はっ酵エキス(大豆)」(保湿成分)などの新配合により、うるおい効果が高まりました。





第2四半期連結貸借対照表

単位：億円

科目	第64期連結会計年度 平成28年3月31日現在	第65期第2四半期 平成28年9月30日現在
資産の部		
流動資産	2,216	2,184
固定資産	3,559	3,380
有形固定資産	2,017	1,931
無形固定資産	53	49
投資その他の資産	1,487	1,399
資産合計	5,775	5,565
負債の部		
流動負債	1,116	1,188
固定負債	1,004	945
負債合計	2,120	2,134
純資産の部		
株主資本	3,221	3,335
資本金	311	311
資本剰余金	415	414
利益剰余金	2,907	3,015
自己株式	△ 412	△ 405
その他の包括利益累計額	96	△ 218
その他有価証券評価差額金	244	220
為替換算調整勘定	△ 112	△ 407
退職給付に係る調整累計額	△ 36	△ 31
非支配株主持分	336	313
純資産合計	3,654	3,431
負債・純資産合計	5,775	5,565

第2四半期連結損益計算書

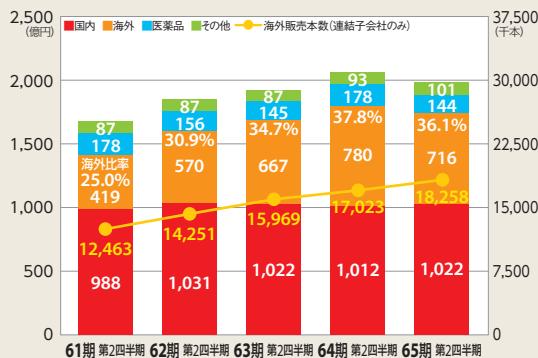
単位：億円

科目	第64期第2四半期累計 平成27年4月1日から 平成27年9月30日まで	第65期第2四半期累計 平成28年4月1日から 平成28年9月30日まで
売上高	1,942	1,889
売上原価	840	824
売上総利益	1,102	1,065
販売費及び一般管理費	878	877
営業利益	224	187
営業外収益	65	55
受取利息	14	13
受取配当金	9	9
持分法による投資利益	20	19
その他	21	12
営業外費用	7	5
支払利息	4	3
その他	2	1
経常利益	282	237
特別利益	4	2
固定資産売却益	4	2
その他	0	—
特別損失	5	3
固定資産除却損	4	0
投資有価証券評価損	—	2
その他	0	0
税金等調整前四半期純利益	282	236
法人税等	84	60
四半期純利益	198	175
非支配株主に帰属する四半期純利益	28	25
親会社株主に帰属する四半期純利益	169	149

第65期第2四半期のポイント

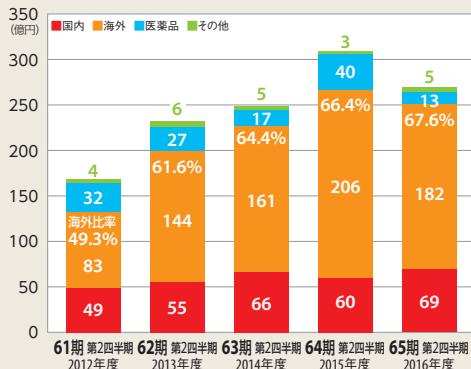
1. 全体は減収・減益
2. 国内飲料は乳製品の価格改定効果および積極的なマーケティング投資による販売本数増により増収・増益
3. 海外飲料はアジアを中心とした販売本数の増加があったものの、為替の円高影響等により減収・減益
4. 医薬品は薬価改定の影響等により減収・減益

▶ 売上高推移 (連結)



(注) セグメント間売上高の消去前金額で表示しています。

▶ 営業利益推移 (連結)



(注) 全社費用等の調整前金額で表示しています。

第2四半期連結キャッシュ・フロー計算書 単位: 億円

科目	第64期第2四半期累計	第65期第2四半期累計
	平成27年4月1日から 平成27年9月30日まで	平成28年4月1日から 平成28年9月30日まで
① 営業活動によるキャッシュ・フロー	288	248
② 投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 247	△ 305
③ 財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 25	26
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 34	△ 99
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△ 19	△ 130
現金及び現金同等物の期首残高	1,034	1,017
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,014	887

キャッシュ・フローのポイント

- ① 営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前四半期純利益236億円、減価償却費等があったことにより、248億円(前年同期比39億円の収入減)となりました。
- ② 投資活動によるキャッシュ・フローは、主に定期預金の預入や生産設備の新設、増設および更新による固定資産の取得があったことにより△305億円(前年同期比58億円の支出増)となりました。
- ③ 財務活動によるキャッシュ・フローは、主に借入れによる収入があった一方で、リース債務の返済や配当金の支払い等により26億円(前年同期比51億円の収入増)となりました。

▶ より詳細な財務情報は、当社ホームページの「IR情報」で各種資料がご覧いただけます。

<http://www.yakult.co.jp/company/ir/>

ヤクルト IR情報

検索

新 ヤクルト中央研究所が ついに完成!

～生命科学分野での最先端の研究を行う
“森と水に囲まれた研究所”～

グローバルな研究開発競争に 打ち勝つための研究開発拠点

2016年4月15日、中央研究所における研究棟の建築工事が終了し、新規設備が全棟完成しました。中央研究所では、5つの研究棟(研究管理棟、基礎研究棟、食品研究棟、医薬品・化粧品研究棟、品質・技術開発棟)の新設工事と、最新鋭の研究機器・設備の設置、研究環境の整備を進めてきました。今後は、グローバルな研究開発競争に打ち勝つための研究開発拠点として、腸内フローラやプロバイオティクスなどの基礎研究および食品、医薬品、化粧品の商品化研究を加速させていきます。

ヤクルト中央研究所の概要

設 立	1955年4月
所 在 地	東京都国立市泉5-11
所 員 数	約300名
敷 地 面 積	29,781.65㎡
主な研究内容	人の健康の維持・増進・回復に役立つ食品・医薬品・化粧品の素材開発と利用の研究
研 究 分 野	微生物学、栄養学、生理学、免疫学、生化学、生物工学、有機化学、発酵工学、天然物化学、薬学、分析化学

1 研究管理棟

● 事務部 ● 研究管理センター ● 信頼性保証室

研究所全体の統括・管理を担う事務・研究管理部門が使用する建物です。国際的な研究発表の場としての「国際会議場」、創始者 代田 稔の業績とその歩みを展示する「代田記念館」など“見せる”施設を併設しています。



代田記念館

▶ 代田記念館については、一般公開しております。見学申込方法など詳細は、ホームページをご参照ください。



<http://www.yakult.co.jp/shirotakinenkan/seeing.html>

2 基礎研究棟

● 基盤研究所 ● 微生物研究所 ● 安全性研究所

中央研究所のスタート時から一貫して取り組んでいる腸内フローラと健康の関わりや「健腸長寿」の概念を科学的に立証する研究を行います。プロバイオティクス研究の根幹を支える役割も担っています。

乳酸菌 シロタ株



3 食品研究棟

● 食品研究所

有用微生物や機能性食品素材の探索および有効性の評価を行い、また、乳酸菌を利用した発酵技術など生物工学的技術を用いた応用研究を行います。



4 医薬品・化粧品研究棟

● 医薬品研究所 ● 化粧品研究所 ● 分析試験研究所

がん領域に特化した医薬品の開発研究や、有用微生物を利用した機能性化粧品などヤクルト独自の開発研究を行います。また、受託分析を行う分析センターを併設しています。



5 品質・技術開発棟

主に食品素材の開発研究に関わる技術開発のためのプラント室を備えるとともに、関係会社のヤクルト薬品工業株式会社の本社機能と品質管理機能を有しています。



現在、日本を含む33の国と地域で、主として乳製品乳酸菌飲料「ヤクルト」の製造、販売を行っており、世界中で毎日3,500万人を超える方々
(平成29年3月期第2四半期 1日平均本数3,647万本)にご愛飲いただいています。

【世界の販売本数】



海外：2016年1月～6月の1日当たり平均本数
日本：2016年4月～9月の1日当たり平均本数

EUROPE

- ▶ 国と地域：12
- ▶ 1日当たりの販売本数：62万本

ヨーロッパ地域

- フランス
- スペイン
- オランダ
- ベルギー
- ルクセンブルク
- イギリス
- アイルランド
- ドイツ
- オーストリア
- イタリア
- マルタ
- スイス

THE AMERICAS

- ▶ 国と地域：6
- ▶ 1日当たりの販売本数：589万本

米州地域

- ブラジル
- ウルグアイ
- メキシコ
- ベリーズ
- アメリカ
- カナダ

JAPAN

- ▶ 1日当たりの販売本数：926万本

ASIA AND OCEANIA

アジア・オセアニア地域

- ▶ 国と地域：14
- ▶ 1日当たりの販売本数：2,070万本

- 台湾
- 香港
- タイ
- 韓国
- フィリピン
- シンガポール
- ブルネイ
- インドネシア
- オーストラリア
- ニューゼaland
- マレーシア
- ベトナム
- インド
- 中国



会社概要

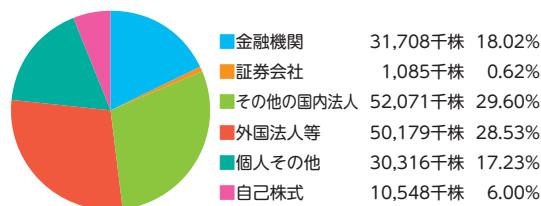
商号 株式会社ヤクルト本社
(Yakult Honsha Co., Ltd.)
設立 昭和30年4月9日
本店 東京都港区東新橋1丁目1番19号
電話 03 (3574) 8960 (大代表)
資本金 311億17百万円
従業員 2,905人

(注) 上記従業員数には、関係会社等への出向者313人および嘱託146人を含んでいます。

株式の状況

発行可能株式総数……………700,000,000株
発行済株式総数……………175,910,218株
株主数……………29,651名

所有者別分布状況



所有株式数別分布状況



役員

代表取締役会長 CEO	堀 澄也	取締役	リチャードホール	常勤監査役	阿部 晃範
代表取締役社長 COO	根岸 孝成	取締役	安田 隆二	常勤監査役	山上 博資
取締役	川端 美博	取締役	福岡 政行	監査役	奥平 哲彦
取締役	成田 裕	取締役	ペトラドオスレイ	監査役	谷川 清十郎
取締役	伊藤 正徳	取締役	フィリップケゲルス	監査役	小林 節子
取締役	若林 宏	取締役	松園 直史	監査役	吉田 宏一
取締役	石川 文保	取締役	前田 典人	監査役	手塚 仙夫
取締役	田中 正喜				

大株主

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
パークレイズバンクピーエルシー シンガポール ノミニ ダノン プロバイオティクス プライベート リミテッド	35,212	20.02
株式会社フジ・メディア・ホールディングス	6,492	3.69
みずほ信託銀行株式会社 退職給付信託 みずほ銀行口	4,957	2.82
松尚株式会社	4,917	2.80
共進会	4,479	2.55
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	3,103	1.76
キリンビバレッジ株式会社	2,458	1.40
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	2,441	1.39
株式会社みずほ銀行	2,186	1.24
中村輝夫	2,031	1.15

(注) 共進会は、当社の取引先であるヤクルト販売会社を会員とする持株会社です。
上表のほか、当社は自己株式10,548千株を保有しています。

ヤクルト中央研究所

「オープニングカンファレンス」を開催!

～ 総合科学雑誌[nature(ネイチャー)]との共同企画により「科学するヤクルト」を世界にアピール～

新ヤクルト中央研究所の完成記念イベントである「オープニングカンファレンス」が、11月1日、東京・帝国ホテルにて、国内外の研究者のご参加のもと、総合科学雑誌[nature]との共同企画で開催されました。

「nature」は、1869年に英国で創刊され、世界で特に権威のある学術誌として評価されています*。この度の共同企画による開催は、ヤクルト中央研究所を中心とする当社グループの生命科学分野における先進性・先駆性を世界に強くアピールするものです。



当日は、腸内フローラを中心とした生命科学分野の研究の最前線にふれるパネルディスカッションや記念講演、ヤクルト中央研究所の紹介など盛り沢山の内容で、500名近いご参加をいただきました。あらためてこの分野の研究の可能性と当社グループの果たすべき使命を確認できた素晴らしいイベントとなりました。

* 学術誌の認知度および科学的信頼性を評価する際に広く利用されている指標「インパクトファクター」において、総合科学分野で第一位を獲得しています。インパクトファクターとは、学術雑誌を対象として、その雑誌の影響度・引用された頻度を測る指標で、トムソン・ロイター社が毎年発表しています。





nature
café

プレゼンテーション&パネルディスカッション

「健康と病気における腸内フローラの役割」

総合科学雑誌「nature」が2008年より主催しているnature caféを開催。「健康と病気における腸内フローラの役割」をテーマに世界の研究者をパネリストに迎え、各パネリストのプレゼンテーションやパネルディスカッションを行いました。会場からも積極的な質問・発言がでるなど、盛況のうちに幕を閉じました。

スナップショット

Snapshot

当日のカンファレンスの内容を簡単にご紹介します。

中央研究所紹介・記念講演

ヤクルト中央研究所の紹介映像と最新の研究成果のプレゼンテーションの後、nature caféにもパネリストとしてご参加された本田賢也教授(慶應義塾大学医学部微生物学・免疫学教室)による「口腔常在菌の腸管定着によるTh1細胞誘導」をテーマとした記念講演が行われ、最先端の研究成果が発表されました。



これらのイベントの内容は、後日採録記事として、「nature」「SCIENTIFIC AMERICAN」「日経サイエンス」の各誌に掲載されます。

ホームページのご紹介

当社のホームページでは、会社情報、IR情報、商品情報、CSR活動などさまざまな最新情報を掲載しております。特に株主・投資家の皆さまに向けては、トップメッセージ、決算短信、有価証券報告書のほかIRニュースなども掲載しております。ぜひご覧ください。



<http://www.yakult.co.jp/>

株主優待

当社商品の提供 ※保有期間に応じて優待内容が異なります。

毎年3月31日現在で100株以上所有の株主の皆さま(保有期間3年未満)

●当社商品3品(「ジュース詰め合わせ」「乾めん詰め合わせ」「化粧品」)のうち**好きな商品を1品**進呈(※1,000株以上所有の株主の皆さまは商品内容が異なります)。

毎年3月31日現在で100株以上所有の株主の皆さま(保有期間3年以上)

●当社商品3品(「ジュース詰め合わせ」「乾めん詰め合わせ」「化粧品」)のうち**好きな商品を2品**進呈(※1,000株以上所有の株主の皆さまは商品内容が異なります)。

※発送は7月下旬の予定です。

東京ヤクルトスワローズが神宮球場で開催するプロ野球公式戦「株主優待証(外野自由席)」の提供

※外野自由席の販売がない試合(全席指定試合)はご利用できません。

毎年9月30日現在で1,000株以上所有の株主の皆さま

●年間24ポイント付与。1ポイントにつき、入場券(外野自由席)1枚との引き換え、1試合につき4ポイントまで利用可。

毎年9月30日現在で100~999株所有の株主の皆さま

●年間4ポイント付与。1ポイントにつき、入場券(外野自由席)1枚との引き換え、1試合につき4ポイントまで利用可。

※発送は3月中旬の予定です。

株主メモ

事業年度	4月1日から翌年の3月31日まで	
株主総会	定時株主総会	毎年6月中
	臨時株主総会	必要に応じ随時
基準日	定時株主総会の議決権	3月31日
	期末配当金	3月31日
	中間配当金	9月30日

公告掲載方法 電子公告 <http://www.yakult.co.jp/>
ただし、事故その他やむを得ない事由により電子公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。

株主名簿管理人	東京証券代行株式会社
事務取扱場所	〒101-0054 東京都千代田区神田錦町三丁目11番地 (神田錦町三丁目ビルディング6F)
(郵便物送付先) 連絡先	〒168-8522 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 東京証券代行株式会社 事務センター ☎0120-49-7009

株式に関するお手続きについて

1. 未支払配当金のお支払い

株主名簿管理人である東京証券代行株式会社に
お申し出ください。

2. 住所変更、単元未満株式の買取請求、配当金受取方法の指定など

お取引の証券会社等にお申し出ください。なお、特別口座に登録された株式の手続き(証券会社に開設した口座への振替など)に関しましては、すべて当社の特別口座管理機関である東京証券代行株式会社に お問い合わせください。

Yakult

株式会社ヤクルト本社

証券コード2267

東京都港区東新橋1丁目1番19号

TEL:03-3574-8960(大代表)

<http://www.yakult.co.jp/>

